

自己評価表

愛媛県立新居浜南高等学校

学校番号(6)

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）		カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）	
○主体的に学び考える力、個性を磨き自己実現に向けて努力する態度を持ち、地域社会を支える人材を育成します。		○1年次は共通課程で基礎学力を定着させます。 ○2年次からは特色ある八つの系列で、個性や適性に応じた多様な科目を選択し学びます。 ○地域と連携した教育活動を通して、社会のために役立てることのできる個性を伸長させます。	

領域	評価項目	具 体 的 目 標	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策（意見）
ポ リ ン ・ シ ン デ ー ・ ヨ ウ ・ ユ ー ・ シ ン デ ー ・ ヨ ウ	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合7割以上	A	アンケート結果から88%の教職員が十分な成果があった、かなり成果があったと回答している。成長していない、あまり成長していないと回答した教職員はいなかった。日頃からの熱心な指導に感謝している。	引き続き主体的に学び考える力の育成及び個性を磨き地域社会を支える人材育成に努めていくとともに、教職員のやりがいの向上や負担軽減等の働き方改革の推進に努めていきたい。
	教職員間の共通理解	教育目標を達成するために、教職員間の共通理解を図り、円滑なコミュニケーションや連携・協力体制を構築する。気軽に話ができる場と機会を設ける。	A	学校評価アンケートから、高い評価を得ることができた。	前年度とも比較では、南高満足度の向上は同じ評価であったが、それ以外では評価が向上した。次年度以降も業務改善、働き方改革を推進するとともに、生徒の満足感の向上を目指し、授業改善、学校行事の見直しなど、共通理解を深めていきたい。募集定員確保に向けて情報発信を工夫していく必要性を感じている。教職員の業務の平準化に努めたが、特殊な業務や人員不足などのため、困難さを感じている。年次休暇、特別休暇、テレワーク利用、時差出勤などの周知を図りたい。
	会議の効率化	運営委員会や職員会議、各種委員会の円滑化を図り、効果的に運営を実践する。グループウェアや校務支援システムなどを積極的に活用することで無駄を省き、スリム化を図る。	A	運営委員会は開催しない月を設けるなど、臨機応変に対応することができた。職員会議は時間短縮に努めた。	
	危機管理意識の高揚	学校の安全管理に関する教職員の危機意識を毎月定例の職員会議において喚起する。	A	職員会議で注意喚起することができた。特に交通安全については機会があるごとに全職員と共有することができた。	
	職場環境の整備	教職員の心身の健康に配慮された、能率よく勤務できる職場環境を整備する。教職員間の業務量の多寡を調整し、働き方改革を進める。超過勤務時間の多い教職員数の前年比30%減を目指す。 A:30%以上 B:25%以上 C:20%以上 D:15%以上 E:それ以外	B	担任教諭は校務分掌を原則1つとするなど、業務改善・働き方改革を図った。推進主任業務、学校行事や部活動指導の関係で一部の教諭が超過勤務時間の減少とならなかった。	
	南高満足度の向上	魅力ある学校づくりに努め、南高へ入学してよかったと思える生徒の増加を図る。学校評価アンケートでの評価を前年比10ポイント増を目指す。 A:10ポイント以上 B:8ポイント以上 C:6ポイント以上 D:4ポイント以上 E:それ以外	C	高い水準で推移しているため、大きくポイントが伸びなかったが、生徒の満足度成果はあったといえる。	
教 育 課 程 ・ 学 習 指 導	教育課程の充実	各系列の特色を生かし、生徒の進路実現のために充実した教育課程を編成する。系列集会を適宜実施するなど、系列の特色をより鮮明にして、生徒の活動の場を設定する。	A	来年度の生徒の系列選択に偏りがあり、科目の選択群によっては人数が集中して第1希望とならない場合があったが、設置科目に問題はなく、進路実現に最適な教育課程編成ができている。オープンスクールや系列・科目選択ガイダンスで各系列生徒が説明に当たるなど系列の特色を生かす活動ができている。	総合学科の特徴である科目選択において、生徒の希望が開講条件に掛からないような群の科目構成及び科目の充足を図るべく、教育課程検討委員会で検討していきたい。充足については教科横断型の科目の設置も視野に入りたい。
	学習指導の充実	学習方法の指導などガイダンス機能の充実を図るとともに、生徒の学ぶ意欲を高め、学習習慣の確立を図る。	B	入学直後の新入生オリエンテーションで科目の履修と単位の修得及び評価方法、卒業条件等から義務教育との相違を説明し、学習面における責任と自覚を持たせるためにスガイダンスを行った。考査時の家庭学習時間の推移が1、2年次が伸びたのに対し3年次は低下した。全校平均は現在145分であるが、年々減少傾向にあり、家庭学習時間確保にはやや課題が残る。	定期考査時の家庭学習時間調査の結果が年次により隔たりがあり、また全体の平均時間が145分と十分に確保できているとは言えない。目標を掲げると共にその時間を180分に設定して学習習慣の確立を促したい。
		課題テストや小テストを実施し、「やればできる」ことを生徒に実感させ、家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。	A	全体で実施する課題テストは到達度テストに変更し実施科目でそれぞれ成果を上げている。観点別学習状況の評価に伴い、学習指導において適宜小テスト等による学習評価とフィードバックが行われ、学習改善に繋がり成果を収めている。2学期末の成績では学力面で特に問題となる生徒はおらず、基礎学力の定着も図れていると言える。	「指導と評価の一体化」の実現に向けた観点別学習状況の評価の実施に伴い、定期考査以外の普段の授業から評価とそのフィードバック及び教員の指導改善を確実なものにするために、各教科で生徒の実態に合わせた「指導と評価の計画」を作成し学習意欲向上にもつなげたい。
		生徒一人一人に対して、生徒の実態に応じた個別指導を徹底し、生徒の学力の定着と向上を図る。学校評価アンケートでの授業満足度100%を目指す。 A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:それ以外	C	夏季・冬季休業中に個別の補充を行うことで、基礎学力の定着が図れている。観点別学習状況の評価に伴い、毎時間指導と評価を一体化させた学習指導ができ学力の向上を図ることができている。学校評価アンケートの結果は83%であった。	生徒対象の授業に関するアンケートで2学期は1学期に比べ「そうは思わない」とする割合が各項目で増加した。割合にして2～3%であるが過去にこのような例はない。来年度は指導と評価をより確実に行い教員の指導改善にも努めていきたい。数値目標にD「そうは思わない」1%以下の項目数を段階に分け掲げ、授業の充実を図りたい。
	授業の充実	基礎的基本的な知識・技能が定着するよう、分かりやすく興味が持て、集中して取り組める授業を工夫する。ICT機器の活用や相互授業参観を年に8回実施することにより授業改善を行う。 A:8回以上 B:7回 C:6回 D:5回 E:それ以外	A	公開授業で相互参観授業を行い、また、県立学校基礎研修など様々な研修において研究授業を行った。各教科批評会を通して指導力向上を図ることができた。参観授業は各教科で実施し全体で8回以上行うことができている。	
生 徒 指 導	指導体制の確立	全教職員の共通理解の下、一貫性のある指導ができる組織的な体制を確立し、指導を行う。毎月1回、年次ごとの指導を行う。	B	全教職員の共通理解はできていると思うが、いざ指導するべき場面となると、対応に少し差がある場合があった。	いじめや不登校、飲酒・喫煙などの問題行動といった従来からの指導事項に加え、SNSでのトラブルやネットいじめなど、新たな課題への対応も求められる。さらに、家庭環境の複雑化、個別の支援が必要なケースが増えるなど、近年、生徒指導の在り方が多様化・複雑化している。
	基本的生活習慣の確立	高校生らしい身だしなみで生活できるように、教育活動全般において継続的な指導を行う。また、しっかりとした規範意識の醸成を図る。身だしなみ指導合格生徒100%を目指す。 A:95% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:それ以外	B	事前の呼び掛け及び事前指導を行っているため、準備はよくできている。指導後の日常での学校生活では、継続的に正しい身だしなみができていない生徒も見受けられる。進路実現に向けて、平素からの丁寧な指導が必要だ。	こうした社会の変容に対処し、生徒一人一人の自己実現を達成するためには、これまで以上に教員間の意識統一を徹底し、学校全体で生徒指導に取り組む体制づくりが必要になると考える。
		出席率の向上を目指し、遅刻や欠席の目立つ生徒への段階的指導を行うとともに、家庭や関係機関と連携し、生活習慣の改善を促す。長期欠席者の数を全体で限りなく0に近づける。 長期欠席者A:0人 B:5人以下 C:10人以下 D:15人以下 E:それ以上	B	長期欠席者数は数名であったが、今年度も遅刻の数が多かった。朝遅刻は連絡があれば指導の対象にしていないため、遅刻指導の在り方も考える必要がある(通院や配慮を要する場合は除く)。また、欠席連絡を確実にできない家庭も少しずつ増えてきているのも今後の課題である。	
		校内外で活気ある明るい挨拶ができるようにホームルームや部活動等で指導を図る。明るい挨拶と返事ができる生徒100%を目指す。 A:95% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:それ以外	B	ほとんどの生徒が気持ちの良い挨拶ができるが、一部の生徒は相手が挨拶しても返すことができないこともある。挨拶がコミュニケーションの始まりであることを、機会あるごとに再確認させる必要がある。	
	家庭・地域との連携	本校の生徒指導の方針や取組について、家庭・地域・関係機関に理解していたくとともに、連携しながら指導を行う。	B	ほとんどの家庭は学校での生徒指導に協力的ではあるが、責任・義務を果たさない状態で自らの権利のみを主張したり、放任主義であったり、理解に欠ける保護者もいた。	

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具 体 的 目 標	評 価	目標の達成状況	次年度への改善方策(意見)
進路指導	進路実現	生徒一人一人の進路希望の把握に努め、教職員の共通理解の下、3年間を見通した進路指導を行う。進学・就職とも希望する進路実現100%を目指す。 A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:それ以外	B	全教職員協力の下、ほとんどの生徒が希望する進路実現を果たすことができた。就職に関しては、就職希望者36名全員が内定をいただいた。進学に関しては国公立大学3名、松山大学10名を含め、進学希望者73名全員が推薦・総合型選抜で合格した。	昨年度は国公立大学に7名が受験し、6名が合格したが、今年度も年次団を中心に生徒に高い意識を持たせ、6名が学校推薦型と総合型選抜を受験し、3名が合格した。松山大学には10名が受験し、全員が合格した。近年では最も多い合格者数である。また早稲田大学に1名合格者した。来年度以降も主体的に学習し、高い目標に向かってチャレンジする生徒を育てていきたい。
	面接指導の充実	就職試験や進学の学校推薦型選抜等に対応できるマナー指導や面接指導等を全教職員の理解と協力の下、実施する。	B	夏季休業中に就職希望者対象の面接指導を全教員で行ったり、外部から専門の方を招いてマナー指導を行い、生徒の進路実現に大きな役割を果たした。	就職に関しては、今年度より求人票閲覧の新しいアプリを導入し、担任も生徒の希望する職種の傾向を簡単に把握できるようになった。近年の人手不足を反映し、多くの求人があったが、仕事内容を吟味せずに、特に保護者の意向だけで就職先を決める生徒が多かった印象である。次年度は、生徒だけでなく保護者も参加できる企業説明会の案内を積極的に行っていきたい。
	適切な情報提供	進学や就職の情報を適切な時期にICTを活用し、本人や保護者に提示し、周知に努めるとともに、進路指導室・進路資料室に、進路に応じた資料等を準備し、活用を図る。	A	今年度は、生徒会から提案があったGoogle Classroomの「生徒伝達資料」ボックスに、オープンキャンパスや各種ガイダンスなどの案内を載せ、確実に全生徒が閲覧できるようにした。	
特別活動・ボランティア活動	ホームルーム活動	各年次に合わせた適切なホームルーム活動の主題を設定して、計画的に実施する。	A	各年次で計画的なホームルーム活動が実践できている。クラス独自のテーマ設定時数を有効に活用し、担任の個性を生かしたクラス経営や生徒間の相互理解を深める機会を作るなど工夫が見られた。	人権・同和教育や保健に関するホームルーム活動など、地域に根差した実践的な活動ができており、今後も継続し、さらに発展させたい。また、2・3年次では系列ごとに分かれての学習活動が中心となるため、ホームルーム単位での活動減少に伴うクラスへの帰属意識が低下するという課題がある。特にこれらの年次では、ホームルーム活動の主題設定を適切かつ計画的に取り組むよう、年次主任を中心に常に確認していきたい。
	学校行事・生徒会活動	生徒が学校行事や生徒会活動に主体的・積極的に参加し、教師と生徒が連帯感を持って取り組む諸行事の実施を図る。学校評価アンケートでの学校行事満足度100%を目指す。 A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:70%以上 E:それ以外	A	COVID-19への対応の経験から学んだこと活かしながら、学校行事等を行うことができた。また、全てを以前と同様に戻すのではなく、新たな在り方を生徒と教員と一緒に考え、実践できたことは高く評価できる。生徒会活動も、主体的に取り組む組織として成長をみせた。十数年ぶりとなる芸術文化鑑賞会を再開できた。	生徒会役員選挙や各種学校行事の実施に当たり、生徒は主体的に活動し、取り組むことができた。事前の準備段階において、教員が丁寧に対応・支援しすぎる場面もあったが、今年度また種が着実に成長して新年度の活動が主体的に展開できるよう支援していきたい。また、生徒会の組織も規約通りに整ってきたこともあり、様々な場面で経験値を上げながら活動の充実を図りたい。
	部活動	生徒の健康面や安全面に留意し、好ましい人間関係の育成などに配慮した運営を図る。部活動加入率90%以上を目指す。原則、平常日・週休日に各1日休養日を設け、効率的な運営を目指す。 A:95%以上 B:90%以上 C:85%以上 D:80%以上 E:それ以外	B	部活動の加入率が1年次100%、2年次92.8%、3年次83.3%と、上級生の加入率が低い年度となったことからくる習熟度や経験不足からくる、人間関係の構築には課題が残る場面も見られたが、精一杯、日頃の活動の成果を表現できた。上級生の部活動加入率(定着)が、次年度の課題である。 ＜加入率は、94.5%。(昨年度 86.7%)＞	学校行事や部活動、ボランティア活動等が順調に行われた一年であった。猛暑日や雨天時等の日程計画はしっかり調整して臨めたいが、各所との連携を密にして、生徒の安心・安全が確保された特別活動の実践に引き続き学校をあげて取り組んでいきたい。
	ボランティア活動	ボランティア活動参加数延べ500名以上を目標に、中心として活動する地域共創系列やユネスコ委員会、VYS部、家庭クラブ等を生徒会が支援する形で、全校生徒の意識の高揚を推進する。 【ただし、学校行事の奉仕活動はカウントしない。】 A:500名以上 B:450名以上 C:400名以上 D:350名以上 E:それ以外	A	ボランティア活動全体としては、主催者側からの制限は解消されてきたが、依頼日程の重複や参加前提の形での依頼が増えるなど、学校側の調整だけでは対応できず、お断りする案件も少なくなかった。ただし、VYS部や地域共創系列、ユネスコ委員会、家庭クラブ等の生徒だけでなく、多くの有志生徒が地域と連携しながら主体的に取り組むことができた。以上を踏まえ、次年度は数値目標を見直したい。ボランティア活動参加延べ人数は、527名。(昨年度 474名)	部活動支援事業「魅Can部」の活動も2年となり、指定のユネスコ部、芸術創作部ともに昨年度以上に活動を充実させて取り組んだ。合わせて、部活動の指導における、顧問の配置・負担軽減を図り、これまでと変わらない活動の提供に努める体制を構築して取り組めた一年であった。文化部、体育部、総合部それぞれがお互いの活動に刺激を受け、切磋琢磨しながら更なる活動の充実と成果につなげてほしい。
保健管理	保健活動	学校運営組織の中に学校保健の分野を適切に位置付け、全教職員が役割を分担して活動できる体制を構築する。	B	滞りなく学校保健活動が行われた。定期的な学校安全点検等を実施し、職場環境の改善に取り組めた。	2学期末にインフルエンザ罹患者が急増したが乗り切ることができた。職場環境については定期的に点検するなど改善に努めた。
	健康管理	健康診断と事後措置を計画的に実施し、健康診断で発見された異常の事後措置・指導の受診率100%を目指す。 A:100% B:75% C:50% D:25% E:それ以外	B	予定通り健康診断を実施することができた。事後措置・指導の受診率が100%とならなかった。	引き続き健康管理意識の向上を図りたい。健康診断後の事後措置・指導について周知方法や回収方法の改善を図りたい。さらに生徒、教職員ともに安心安全な学校づくりに努めていきたい。
	安全・衛生・清掃美化	美しい環境づくりの意識を持ち、毎日の清掃に、開始から終了までの10分間一生懸命取り組める生徒100%を目指す。 A:100% B:75% C:50% D:25% E:それ以外	B	ほとんどの生徒が時間いっぱい清掃できている。	
人権・同和教育、特別支援教育	教職員研修	全教職員が人権・同和教育及び特別支援教育についての意識を高め、指導の力量を身に付けていくための研修を実施する。	B	本校の実情に応じた教職員の研修を実施することで、全教職員の人権意識を高めることができた。また、地域でのフィールドワーク等により、指導力向上につながる研修が実施できた。	必要に応じた研修を実施することで、全教職員の人権意識の高揚を図り、人権・同和教育が推進できる体制作りができた。それにより、人権委員の活動も主体的に活発に行うことができた。今年度は新居浜警察署の呼びかけにより、北朝鮮人権侵害問題啓発週間の啓発活動などを人権委員会の活動として実施することができ、新たな課題を学び、地域と連携する機会となった。このような活動は次年度にも引き継いでいきたい。進路保障においては、差別を見抜く力、一人一人の取組の重要性を認識させ、さらに学びを深めていきたい。
	生徒の主体的な取組	各種の学校行事や人権委員会の活動を通して、生徒の主体性を育みながら人権意識の高揚を図る。	B	人権・同和教育ホームルーム活動と連動する現地研修会を実施することで生徒の主体性を育むことができた。また、学びをフィードバックすることで、全ての生徒の人権意識の高揚を図ることができた。	
	進路保障	様々な困難な条件の下にある生徒に対して、家庭・地域・関係機関等との連携を図りながら進路保障の徹底に努める。	B	家庭・地域・関係機関等と連携を密にし、個別の指導を徹底することで、様々な進路に対応しながら目標を達成することができた。	
図書・研修	現職教育	教育公務員としての自覚と使命感の高揚に資する研修等、必要な研修を必要な時期に必要な対象者が受けられるように情報を周知するとともに、計画的に実施する。	C	校内外の各種研修の案内について、グループウェアの電子掲示板を利用して、周知を図ることができた。	今年度と同じく研究授業や11月の相互参観授業週間の実施など、生徒の深い学びの実現に向けた授業改善を行うために、引き続き研修の機会を設けていきたい。希望する研修内容があれば、愛媛県総合教育センター、大学や専門学校の出張講座や新居浜市の出前講座などの活用を図りたい。
	教科指導の充実	互見授業や研究授業を実施し、授業を校内や地域に広く公開することで、教員の指導力や生徒の学習活動の向上に努める。	C	年度始めに予定されていた教科の研究授業は、実施時期に変更はあったが、実施することができた。互見授業や研究授業を充実させ、さらなる授業力向上を目指していく必要がある。	生徒の興味や関心に合わせた図書の購入を行い、図書委員会を中心とした読書推進活動に取り組んでいく必要がある。新聞資料の授業での活用について呼び掛けたい。
	読書意欲の向上	朝読書の充実をはかることで、生徒の読書への意欲を高める。また、使いやすい学校図書館環境の一層の充実に努める。	C	各年次とも朝読書の時間は静かに本を読み、落ち着いたで過ごしている。図書館の年間図書貸出数が伸びておらず、貸出数増加のための有効な方法について検討していく必要がある。	昼休みや放課後に図書館を訪れ、図書館の存在そのものが心のよりどころになっている生徒も多い。生徒の安心できる居場所としての機能を高めたい。

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具 体 的 目 標	評 価	目標の達成状況	次年度への改善方策(意見)
I C T	機器の整備と活用	全教職員が「生徒一人一台端末」を活用した教科指導を実践し、生徒の学力の伸長を促すとともに学習意欲の増進を図る。また、教職員の指導力の向上ために全体的な研修や個別の情報交換を進め、GIGAスクール構想を推進する。	B	全教職員がICT教育への理解と実践を心掛けて教科指導をしている。生徒への学校評価アンケートにおける該当項目の値も非常に高い。	来年度は新しいタブレットPCに切り替わる年度である。ICT教育への理解が深まってきた中で、一人一台端末の使用法の確立が必要とされる。その中には、学習のために使用するといったルールや大事に使用するというモラルも含まれるため、生徒課や特活課と連携し、生徒のためになる活用の仕方を考えていきたい。
	ホームページの整備と活用	学校行事等、学校の情報をタイムリーに発信し、学校の様子や生徒の活動状況を広く周知する。素早い更新を心掛け、遅れの無いようにする。	B	学校行事等の情報をできるだけ早く投稿するようになった。学校公式インスタグラムも発足し、情報をよりタイムリーに発信することができるようになった。	
教 育 相 談	教育相談の周知徹底	「教育相談室のお知らせ」を毎月教室掲示し、「教育相談だより」を学期に1回程度発行することで、教育相談活動の周知と理解を図る。また、教育相談室を活用して気軽に相談できるように工夫する。	B	教育相談室の有効な運用にのために、各種掲示、発行で周知を行うことができた。	サポートファイルはないが、支援が必要と思われる生徒が見られたため、昨年から開始した学期末の教員対象のアンケートは、既に共有済みの内容も多く、改めて必要な件数があまり見られなかったため、実施しなくてもよいと思われる。
	生徒の状況把握	教職員の連携を密にして、生徒の状況把握に努める。学期末ごとに生徒情報についてのアンケートを実施し、生徒情報の集約を行うことで、関係各所連携と早期対応につなげる。	B	担任への相談を通して、早期発見ができた。具体的な案件への対応が多かったことから、アンケートの時期や形式の変更を終ての実施となった。	
	教職員間の情報交換	教職員間のコミュニケーションをとり、素早い情報交換・共有を行い対処する。アンケートで得た生徒情報など、必要に応じて、年次や職員全体への情報共有を行う。	B	年次や生徒課と連携した会などが迅速に開かれ、連携がとれた情報交換を行って対応することができた。	
保 護 者 等 と の 連 携	保護者への情報提供	南高通信やPTA通信の発行、ホームページの活用によって、学校での生徒の状況が保護者によく分かるように情報の提供に努める。また、研修旅行や文化祭でのPTA活動など保護者の学校行事への参加の機会を拡充する。	B	情報提供については円滑に実施できた。また、保護者の参加についても、おおむね文化祭など良好であった。	生徒に係る行事は、比較的保護者の関心が高く、参加率も高い傾向がある。まず、行事については、早めの周知を行う。期日についても変更できるものは、変更する。(奉仕活動などを本年度行った。)次年度より生徒個人用の防災グッズの購入と引き渡しを開始予定である。
	地域との教育活動	地域の行事に積極的に参加・協力したり、地元の小・中学校や公民館等関係諸機関との交流を積極的に行い、地域に生き、地域に貢献できる生徒の育成を図る。	B	公民館や地域の行事への参加については例年程度の参加が図られた。	
産 社 ・ 時 間 等 ・ 総 合 探 究 の	キャリア教育の推進	「産業社会と人間」「ライフスタディⅠ」「ライフスタディⅡ」に主体的に取り組ませることで、望ましい職業感や就労観を育み、インターンシップなど積極的な導入を図り、キャリア教育の推進をさらに加速する。	B	企業見学、上級学校・施設訪問、インターンシップ、ライフスタディⅡ発表会など地域と連携した体験的な学びの実践が行えた。そのようなことから、目標達成に向けた成果が見えている。	キャリア教育を推進し、昨年に引き続き事業所訪問、上級学校訪問、インターンシップなどへ取り組むとともに、新居浜市SDGsプラットフォームと連携を図り、特にライフスタディⅡを中心に多様な学びを実現するため地元産業界との協働事業を展開したい。
事 務 管 理	親切的な応対	来訪者及び電話への応対を親切かつ丁寧に行うことで、生徒や保護者、関係者からの信頼を得ることができるように努める。	B	来訪者及び電話への応対を親切かつ丁寧に行うことができた。	来訪者及び電話への応対を親切で丁寧な対応を引き続き行う。生徒の安全・健康のため施設や設備の適切な管理運営、教育・衛生環境の改善等を、予算を考慮しながら対応していきたい。
	適切な事務処理等	経費の節約に努め、適正かつ能率的な事務処理を行うとともに、施設や設備の適切な管理運営を行うことで、学校の教育活動の効率化を図る。	B	生徒の安全のため施設管理を心掛けるとともに、適正な事務処理及び経費の節約に努めることができた。	

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。